

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成30年(2018年)

12-1月号

(通巻 179号)

2018年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

アズマモグラ

冬は芝地や土手でモグラ塚が目立ちますが、モグラそのものに出会うことは稀です。前足が、大きくて強力です。

P1 ☀️ いきもの写真館
アズマモグラ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然
哺乳類
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
ハラビロカマキリ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
本塩・豊受神社のイチョウ

☀️ くすのきのあるバス通りから
身近な野鳥たち

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
手のひらサイズ ヒバカリ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
9月～10月の記録

P8 ☀️ 行事案内

気にしておきたい市川の自然

哺乳類

東京 23 区に隣接する「超都会」の市川市には、大型の哺乳類は生息していません。中型種、小型種のみが生息します。それらの哺乳類は、都市環境への適応の違いによって、種の動向に大きな違いが生じています。

市川市域に生息する哺乳類

市川市域に生息する哺乳類をざっくり紹介すると、つぎのとおりです。

< 中型種 >

タヌキ、イタチ、ハクビシン、マスカラット、ニホンノウサギ

< 小型種 >

ニホンジネズミ、アズマモグラ、アブラコウモリ、カヤネズミ、アカネズミ、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ

< ペット由来 >

イヌ、イエネコ

これらのうち、わたしたちが目にする機会が多いのはアブラコウモリです。ほかの種類の哺乳類と出会うことはあまりありません。ただ近年は、タヌキ、ハクビシンの目撃例が市街地でも増えています。

絶滅の危機にある種類

中型種のうち、イタチとニホンノウサギは激減し、市川市域では断片的な生息情報が得られるのみです。イタチは水田や湿地に生息し、ニホンノウサギは広い草原や雑木林に生息します。そういう環境そのものが、市内にはほとんど残っていません。

小型種では、ニホンジネズミとカヤネズミが、近年生息情報がまったく得られません。どちらも聞きなれない種類ですが、ニホンジネズミはモグラと同じ食虫目の動物で、モグラとは違い地上で生活します。藪や林がすみかです。カヤネズミは湿地で

暮らす小さな野ネズミで、ヨシや稲などを編んで球状の巣を作ります。ニホンジネズミは見るのが難しいだけで、北部地域には生息しているかもしれません。カヤネズミは、適した湿地がほぼ消滅し、市川市域での生息は困難な状況です。

マスカラットは、湿地に生息する中型のネズミです。もともと飼育個体が逃げ出したと言われる外来種で、一時期増え、湿地の消失とともに市域では姿を消しました。

都市環境に適応した種類

タヌキとハクビシンは、市街地で数を増やしています。雑食のタヌキ、果実食のハクビシンとも、市街地には案外、餌が豊富にあります。タヌキは生ごみも餌とします。また、タヌキは市街地の小さな緑、ハクビシンは木造の家屋にも住み着きます。移動には、道路わきの側溝を使います。餌とすみか、移動経路が確保されていれば、生存は可能です。従来、都市化が進めば動物は減少するという図式に、この2種はあてはまりません。

市街地でも比較的多いアズマモグラとアブラコウモリは微妙です。アズマモグラには農地の宅地化は致命的で、すでに行徳地区ではほとんど見られません。アブラコウモリも、都市河川の汚濁が激しかった時代に川の蓋掛け（地下化）が進んでいたら激減していたかもしれません。決して、都市に適応しているわけではないのです。

ニホンノウサギ

大町公園の自然観察園（長田谷津）で目撃した。大町地区はノウサギの生息をうかがわせる情報が得られることが、時々ある。

2017年2月1日撮影



イタチ

市川市動植物園内で捕獲された個体。かつては大町公園の自然観察園（長田谷津）でも目撃されたが、長く情報が途切れていた。

2012年06月01日撮影



アカネズミ

市川市域ではもっともふつうな野ネズミ。木の实、草の实、昆虫などを食べる。市街地では、生息することができない。



モグラ塚

アズマモグラがトンネルを掘る時にできる排出された土の山。モグラが生息するわかりやすい証拠だが、見られる場所は少ない。



アブラコウモリ

イエコウモリとも呼ぶ。古い家屋や倉庫に住み、水辺でユスリカなどを食べる。都市の水路は餌場、水場として重要。



ハラビロカマキリ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を
このコーナーでは紹介しています。

プランターの田んぼを、作っています。

水を張っておくので

ボウフラが増えないようにメダカを泳がせてあります。

時々水を飲みに来る近所の猫は

メダカには目もくれません。

でもこの日、プランターにいたのはハラビロカマキリ。

メダカを捕まえる決定的瞬間を待ちましたが、

あまりその気は無いようでした。



街かど自然探訪

おじゃまします!

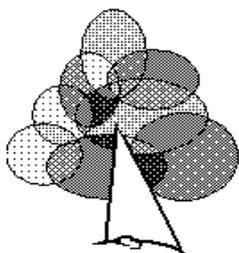
ほん しお

本塩・豊受神社のイチョウ

10月1日の台風24号の通過で、県内各所で塩害が出ました。雨が降らなかったため、海水を含んだ風が当り、塩分が付着した葉が枯れてしまいました。豊受神社のイチョウは、先端と一部の木の南側の葉が落ちて枝が露わになっていましたが、思ったよりも黄色く色づいた葉が残っていて、ほっとしました。ふだんは日差しを遮っている南側に生えているクスノキに、今回は守られたようでした。クスノキは、もともと潮風に強いので、葉は元気でした。



△ 左端、濃い色はクスノキ、右側はイチョウ。参道はほぼ南西を向いている。ちょうど日差しがあたっている部分は、葉が落ちている。クスノキの陰になっている部分は、台風の南風から守られたため、葉が残っている。



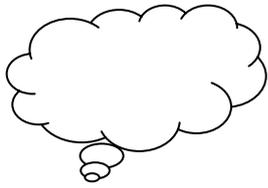
くすのきのあるバス通りから No.121

身近な野鳥たち

10月、JR本八幡駅北口の花壇の近くで、出勤途中の娘がウグイスを、私は数日前、松飛台の郵便局の入り口付近の歩道でメジロが死んでいるのを、今日は元住んでいた、北方の家の前にハトのおびただしい羽根を見つけました。筑波山に行く途中、テンが交通事故で死んでいました。鳥たちがこの時期に死ぬのはどうしてなのでしょう。富貴島小の校庭のベニカナメの生垣の中で、たくさんのおズメがさえずっていました。

た。「今年生まれのおズメですね。どれだけ生き残れるか…」と、自然博の方がいっていました。その向かいの小さな公園の松の木の高いところに、夕方一羽のサギが止まるのを見ました。ジョウビタキやモズがアンテナや、電柱の上で鳴き、群れで移動するオナガ、庭木や垣根を回廊のように渡っていくシジュウカラなど、いろいろな鳥たちと暮らしていく市川でありたい…と思います。

(M. M.)



展示室

No.23

飼育生物の話題



手のひらサイズ ヒバカリ

自然博物館の飼育生物いちばん人気は、シロヘビ（アオダイショウの白化個体）です。シロヘビにつられて2階の展示室へ足を運んでくださるお客さまが大勢いて、毎年見に来ていますというお客さまもいらっしゃいます。シロヘビの飼育は14年目にさしかかりますが、それ以外にも、ヒバカリというヘビを時々飼育しています。

ヒバカリの名前は「噛まれると、その日ばかりの命」という言い伝えに基づいているそうです。それは実際には誤りで、毒が無いどころか温厚で、人を噛むことはまずありません。

ヒバカリは飼いやすいヘビです。おとなしいこともですが、餌がカンタンだからです。ミミズやおたまじゃくし、メダカのような小魚で飼うことができます。どれも博物館の周辺で、自分たちで調達できます。飼育展示を幅広く行う上で、ここは重要なポイントです。餌用の生きたミジンコですら販売されている時代ですが、自力調達の方が確実だし、安上がりです。

ヘビ好きのお客さんに「ヒバカリ、持たせてください」と声をかけられたことがあります。写真は学芸員の手ですが、暴れることもなく簡単にケースから取り出せます。お安い御用ですね。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ 渡り途中のサシバなど、猛禽類がいるせいか、ハシブトガラスがいつもより騒いでいました(9/9)。ハシブトガラスが騒いでいる斜面林からサシバの声も聞こえてきました。
- ・ 足元を小さなヘビが横切って行きました(9/28)。首元の黄色の模様が確認できたので、ヒバカリだとわかり、とっさに手を伸ばして捕まえました。とてもおとなしいヘビで、手の中で迷惑そうにしていました。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・ シラカシの葉が大量に落ちています(10/7)。本来、新しい枝が伸びる6月に落葉するのですが、台風24号による塩害で落ちていると思われます。イチヨウの場合のように葉が塩で枯れた感じはなく、健全な見た目で落ちています。塩の影響で、離層の形成を促進する何事かが起こったのでしょうか。

金子謙一(自然博物館)

◆大野町より

- ・ 朝の通勤時、右から左へ尾羽の美しいオナガの群れが、飛んでいきました(10/28)。ホッとした瞬間でした。

西山光生(自然博物館)

◆大柏川第一調節池緑地より

- ・ 近くの市民プールの大きなケヤキの先端にモズが止まっていました(10/16)。高鳴きは調節池までよく響きました。ヤナギ類の枝を探していくと、エンマコオロギが「はやにえ」になって刺さっていました。

◆じゅんさい池緑地より

- ・ ジュンサイを育成しているエリアに入らせてもらいました。夏前に重機で掘り起こした湿地部分では、埋土種子由来と思われる植物が見られました(9/29)。ニオイタデは、もともとじゅん菜池にあって(ほかではあまり見られない)、それを長田谷津にも保護移植した経緯がある植物です。この日はよく育った株がいくつも見られました。アメリカアゼナやイチョウウキゴケのような水田雑草も見られました。

◆坂川旧河口より

- ・ 河川敷の農地でタヌキを見かけました(9/11)。ビニールマルチのところだったので、何か作物を食べていたのかもしれない。1頭はすぐとなりのクズの茂みに姿を消しましたが、もう1頭は興味深そうにこちらを見ていました。

以上 金子謙一

- ・ 河川敷を歩いていると、バタバタと大きな音を立てて、トノサマバッタが飛びたちました(9/16)。バッタの王様と呼ばれるだけあり、一回のジャンプで20メートルほど飛ぶため、捕まえるのが大変です。

以上 稲村優一

台風21号は西日本で高潮被害、24号は関東で塩害を発生させました。9月は秋雨前線が停滞して、雨や曇りの日が多く、10月になると晴れる日もありますが、猛暑日は無く、過ごしやすくなりました。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 1月5日㊥、2月2日㊥、3月2日㊥、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
クロマツのある街なみ	12月16日㊥午前10時～11時30分	市川公民館入口 午前10時
地形探訪	3月10日㊥午前10時～11時30分	2月以降に お問い合わせください 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。
(雨天中止)

- ・日時 12月23日㊥、1月27日㊥、2月24日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いしていただきませんか。
(申し込み不要・雨天中止)

12月～2月はお休みです。次回 3月3日㊥ 午前10時～12時

- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。



年末年始のお知らせ
年末は27日まで
年始は3日より
開館いたします。

第30巻 第5号 (通巻第179号)

平成30年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>